

## 不活化ポリオワクチン

2012.04.12

みなさんはポリオワクチンにも口から飲む生ワクチンと注射でする不活化ワクチンの2種類があるのをご存知ですか？

現在、日本のすべての自治体で行っているポリオのワクチンはポリオウイルスから強い毒性をなくし弱毒化した生ワクチンを飲んでもらい、6週間以上間をあけて2回接種するというやり方で行われています。

昭和35年から36年にかけてのポリオの大流行の時は旧ソ連からポリオワクチンを緊急輸入して流行を防いだという実績のあるワクチンで、昭和55年以降野生のポリオウイルスでのポリオの発生がなくなりました。しかし、一方でワクチンに由来するポリオの発生が平成19年度には4例、平成20年度には7例発症するなど、ワクチン関連のポリオの発生が問題となるようになりました。

平成22年には、ワクチン関連でのポリオの発生がない不活化ワクチンに早期に切り替えをするよう小児科学会から要望書が出され、ワクチンメーカーでの臨床試験が進んではいますが、製品化され多くの子供達はその恩恵を受けるためにはあと数年の時間が必要です。

小児科医の有志たちは、この要望に応えるべく、独自に不活化ポリオワクチンを輸入して接種を始めるという行動を行っています。世界中で認められているワクチンですから、安全性はどちらも問題はありませんが、不活化ポリオワクチンは国の承認を受けていないために、万が一事故が起こった場合の保障が限られること、接種方法が筋肉注射なので、1歳前のお子さんであれば、太ももに注射しなければなりません。

一般的にはポリオの生ワクチンは安全性、効果ともに全く問題はないのですが、どうしても心配な保護者の選択肢を増やしてあげたいという思いが、小児科医の心を動かしているものと思われます。現在、私の知る限りでは道南地区では接種を行えるところ1ヶ所、準備が整いあとはワクチンが届くのを待っているところが1ヶ所存在します。不活化ポリオワクチンを受けたいと思われるのであれば、ご自身でもよく勉強され気持ちを決めてご相談ください。